

校異源氏物語・ほたる

いまはかくおもくしきほとによろつのとやかにおほししつめたる御ありさま
なれはたのみきこえさせ給へる人くさまくにつけてみな思ふさまにさたま
りた、よはしからてあらまほしくてすくし給ふたいのひめ君こそいとおしく思
ひのほかなる思ひそひていかにせむとおほしみたるめれかのけむかうかりしさ
まにはなすらふへきけはひならねとかゝるすちにかけても人の思ひよりきこゆ
へき事ならねは心ひとつにおほしつゝさまことにうとましとおもひきこえ給ふ
なに事をもおほししりにたる御よはひなれはとさまかうさまにおほしあつめつ
ゝは、君のおはせすなりにけるくちをしさもまたとりかへしおしくかなしくお
ほゆおとゝもうちいてそめ給ひてはなかくくるしくおほせと人めをはゝかり
給ひつゝはかなき事をもえきこえ給はするしくもおほさるゝまゝにしけくわ
たり給ひつゝおまへの人とをくのとやかなるおりはたゝならすけしきはみきこ
え給ふことにむねつふれつゝけさやかにはしたなくきこゆへきにはあらねはた
ゝみしらぬさまにもてなしきこえ給ふ人さまのわらゝかにけちかくものしたま
へはいたくまめたち心し給へと猶をかしくあいきやうつきたるけはひのみみえ
給へり兵部卿宮などはまめやかにせめきこえ給ふ御らうの程はいくはくならぬ
にさみたれになりぬるうれへをし給ひてすこしけちかきほとをたにゆるし給は
ゝ思ふ事をもかたはしはるけてしかなきときこえ給へるをとのこらむしてなにか
はこの君たちのすき給はむはみところありなむかしもてはなれてなきこえ給ひ
そ御かへりときくきこえ給へとてをしへてかゝせたてまつりたまへといとゝ
うたておほえ給へはみたり心ちあしとてきこえ給はす人くもことにやむこと
なくよせおもきなともおさくなしたゝは、君の御をちなりけるさい将はかり
の人のむすめにて心はせなとくちおしからぬかよにおとろへのこりたるをたつ
ねとり給へるさい将の君とてなともよろしくかきおほかたもおとなひたる人
なれはさるへきおりくの御かへりなとかゝせたまへはめしいてゝことはなと
の給ひてかゝせ給ふものなとのた給ふさまをゆかしとおほすなるへしさうしみ
はかくうたてあるものなけかしさの後はこの宮などはあはれけにきこえ給ふと
きはすこしみいれ給ふ時もありけりなにかとおもふにはあらずかく心うき御け

しきみぬわさもかなとさすかにされたとところつきておほしけりとのはいない
くをのれ心けさうして宮をまちきこえ給ふもしり給はてよろしき御かへりのあ
るをめつらしかりていとしのひやかにおはしましたりつまとのまに御しとねま
いらせてみき丁はかりをへたてにてちかきほとなりいといたう心してそらたき
もの心にくきほとに、ほはしてつくろひおはするさまおやにはあらてむつかし
きさかしら人のさすかにあはれにみえたまふさい将の君なとも人の御いらへき
こえむ事もおほえすはつかしくてゐたるをむもれたりとひきつみ給へはいとわ
りなし夕やみすきておほつかなき空のけしきのくもらはしきにうちしめりたる
宮の御けはひもいといえむなりうちよりほのめくおひかせもいと、しき御にほひ
のたちそひたれはいとふかくかほりみちてかねておほし、よりもおかしき御け
はひを心と、めたまひけりうちいて、思ふ心のほとをの給ひつ、けたることの
はおとなしくひたふるにすきくしくはあらていとけはひことなりおと、
いとおかしとほのき、おはすひめ君はひんかしおもてにひきいりておほとこの
もりりにけるをさい将の君の御せうそこつたへにゐさりいりたるにつけていと
あまりあつかはしき御もてなしなりよろつこのことさまにしたかひてこそめやす
けれひたふるにわかひ給ふへきさまにもあらすこの宮たちをさへさしはなちた
る人つてにきこえ給ましきことなりかし御こゑこそおしみ給ふともすこしけち
かくたにこそなといさめきこえ給へとゑとわりなくてことつけてもはい、り給
ぬへき御心はへなれはとさまかうさまにわひしければすへりいて、もやのきは
なるみき丁のもとにかたはらふし給へるなにくれとことなかき御いらへきこえ
給ふこともなくおほしやすらふによりたまひてみき丁のかたひらをひとへうち
かけ給ふにあはせてさとひかるものしそくをさしいてたるかとあきれたりほと
るをうすきかたにこのゆふつかたいとおほくつ、みをきてひかりをつ、みかく
し給へりけるをさりけなくとかくひきつくろふやうにてにわかにかくけちえむ
にひかれるにあさましくてあふきをさしかくし給へるかたはらめいとおかしけ
なりおとろかしきひかりみえは宮ものそき給なむわかむすめとおほすはかりの
おほえにかくまてのたまふなめり人さまかたちなといとかくしもくしたらむと
はえをしはかり給はしいとよくすき給ひぬへき心まとはさむとかまへありき給
ふなりけりまことのわかひめ君をはかくしも、てさはき給はしうたてある御心
なりけりこと方よりやをらすへりいて、わたり給ひぬ宮は人のおはするほとさ
はかりとをしはかり給ふかすこしけちかきけはひするに御心ときめきせられ給
ひてえならぬうすもの、かたひらのひまよりみいれ給へるにひとまばかりへた

てたるみわたしにかくおほえなきひかりのうちほのめくをおかしとみたまふ程もなくまきはしてかくしつされとほのかなるひかりえむなることのつまにもしつへくみゆほのかなれとそひやかにふし給へりつるやうたいのおかしかりつるをあかすおほしてけにこのこと御心にしみにけり

なくこゑもきこえぬむしの思ひたに人のけつにはきゆるものかはおもひしり給ひぬやときこえ給ふかやうの御かへしを思まはさむもねちきたれはときはかりをそ

声はせて身をのみこかすほたるこそいふよりまさるおもひなるらめなどは

かなくきこえなして御みつからはひきいり給ひにければいとほるかにもてなし給ふうれはしさをいみしくうらみきこえ給ふすきすきしきやうなれはゐたまひもあかさてのきのしつくもくるしさにぬれくよふかくいて給ひぬほときすなどかならすうちなきけむかしうるさければこそききもとめね御けはひなどのなまめかしさはいとよくおととの君ににたてまつり給へりと人くもめてきこえけりよへいとめおやたちてつくるひ給ひし御けはひをうちくはしらてあはれにかたしけなしとみないふひめ君はかくさすかなる御けしきをわか身つからのうさそかしおやなどにしられたてまつりよのひとめきたるさまにてかやうなる御心はへならましかはなとかはいとにけなくもあらまし人にぬありさまこそつゐによかたりにやならむとおきふしおほしなやむさるはまことにゆかしけなきさまにはもてなしはてしとおとはおほしけりなをさる御心くせなれは中宮などいとうるはしくや思ひきこえ給へることにふれつたならすきこえうこかしなとし給へとやむことなき方のをよひなくわつらはしさにおりたちあらはしきこえより給はぬをこの君は人の御さまもけちかくいまめきたるにをのつからおもひしのひかたきにおりく人みたてまつりつけはうたかひおひぬへき御もてなしなどはうちまするわさなれとありかたくおほしかへしつさすかなる御なかなりけり五日にはむまはのおとにいて給けるついでにわたり給へりいかにそや宮は夜やふかし給ひしいたくもならしきこえしわつらはしきけそひ給へる人そやひとの心やふりものあやまちすましき人はかたくこそありけれなどといけみころしみいましめおはする御さまつきせすわかくきよけにみえ給つやも色もこほるはかりなる御そになをしはかなくかさなれるあはひもいつこにくはれるきよらにかあらむこのよの人のそめいたしたるとみえすつねの色もかへぬあやめもけふはめつらかにおかしくおほゆるかほりなとも思ふ事なくはおかしかりぬへき御ありさまかなとひめ君おほす宮より御ふみありしろきう

すやうにて御てはいとよしありてかきなし給へりみるほとこそおかしけれまね
ひいつれはことなることなしや

けふさへやひく人もなきみかくれにおふるあやめのねのみなかれんためし
にもひきいてつへきねにむすひつけ給へればけふの御かへりなどそ、のかしを
きていて給ひぬこれかれもなをときこゆれば御心にもいか、おほしけむ

あらはれていと、あさくもみゆるかなあやめもわかすなかけけるねのわか

くしくとはかりほのかにそあめるてをいますこしゆへつけたらはと宮はこの
ましき御心にいさ、かあかぬこと、みたまひけむかしくすたまなとえならぬさ
まにて所くよりおほかりおほししつみつるとしころのなこりなき御ありさま
にてこ、ろゆるひ給ふ事もおほかるにおなしくは人のきすつくはかりのことな
くてもやみにしかなといか、おほさ、らむとはひむかしの御方にもさしのそ
き給ひて中將のけふのつかさのてつかひのついてにをのこともひきつれてもの
すへきさまにいひしをさる心し給へまたあかきほとにきなむものそあやしくこ
ゝにはわさとならすしのふることをもこのみこたちのき、つけてとふらひもの
し給へはをのつからことくしくなむあるをようゐしたまへなときこえ給ふむ
まはのおと、はこなたのらうよりみとおすほととをからすわかき人ゝわたとの
ゝとあけてものみよや左のつかさにいとよしある官人おほかるころなりせう
くの殿上人におとるましとのたまへはものみむことをいとおかしとおもへり
たいの御方よりもわらはへなともものにわたりきてらうのとくちにみすあをや
かにかけたしていまめきたるすそのみき丁ともたてわたしわらはしもつか
へなとさまよふさうふかさねのあこめふたあひのうすもの、かさみきたるわら
はへそにしのたいのなめるこのましくなれたるかきり四人しもつかへはあふち
のすその裳なてしこのわかはのいろしたるからきぬけふのよそひともなりこ
なたのはこきひとかさねになてしこかさねのかさみなとおほとかにてをのく
いとみかほなるもてなしみところありわかやかなる殿上人などはめをたて、け
しきはむひつしの時にむまはのおと、にいて給ひてけにみこたちおはしつとひ
たりてつかひのおほやけことにはさまかはりてすけたちかきつれまいりてさま
ことにいまめかしくあそひくらし給ふ女はなにのあやめもしらぬことなれとと
ねりともさへえむなるさうそくをつくして身をなけたるてまとはしなとをみる
そおかしかりけるみなみのまちもとをしてはるく、とあれはあなたにもかやう
のわかき人ともはみけり打毬楽らくそむなとあそひてかちまけのらさうともの
ゝしるもよにいりはて、なに事もみえすなりはてぬとねりともものろくしなく

給はるいたくふけてひとみなあかれ給ひぬおとゝはこなたにおほとこのこも
りぬ物かたりなときこえ給て兵部卿宮の人よりはこよなくものし給かなかたち
などはすくれねとようぬけしきなとよしありあいきやうつきたる君なりしのひ
てみたまひつやよしといへとなをこそあれとのたまふ御おとうとにこそものし
給へとねひまさりてそみえ給ひけるとしころかくおりすくさすわたりむつひき
こえ給ふときゝ侍れとむかしの内わたりにてほのみたてまつりし後おほつか
なしかしいとよくこそかたちなどねひまさり給ひにけれそちのみこよくものした
まふめれとけはひおとりておほ君けしきにそのし給ひけるとのたまへはふと
みしりたまひにけりとおほせとほゝゑみてなをあるをよしともあしともかけ給
はす人のうへをなむつけおとしめさまの事いふ人はいとおしきものにしたま
へは右大将などをたに心にくき人にすめるをなにはかりかはあるちかきすか
にてみむはあかぬ事にやあらむとみたまへとことにはあらはしてものたまはすい
まはたたおほかたの御むつひにておましなともことゝにておほとこのこもるな
とてかくはなれそめしそと殿はくるしかり給ふおほかたにやかやともそはみ
きこえ給はてとしころかくおりふしにつけたる御あそひともを人つてにみきゝ
給ひけるにけふめつらしかりつることはかりをそこのまちのおほえきらくし
とおほしたる

そのこまもすさめぬ草となにたてるみきはのあやめけふやひきつるとおほ

とかにきこえ給なにはかりの事にもあらねとあはれとおほしたり

にほとりにかけをならふるわかこまはいつかあやめにひきわかるへきあい

たちなき御事ともなりやあさゆふのへたてあるやうなれとかくてみたてまつる
は心やすくこそあれたはふれ事なれのととやかにおはする人さまなれはしつま
りてきこえなし給ふゆかをはゆつりきこえ給ひてみき丁ひきへたてゝおほと
このこもるけちかくなとあらむすちをはいとにけなかるへきすちに思ひはなれはて
きこえ給へれはあなちにもきこえ給はすなかあめれいのとしよりもいたくし
てはるゝかたなくつれゝなれは御方ゝゑものかたりなどのすさひにてあか
しくらし給ふあかしの御かたはさやうのことをもよしありてしなし給てひめ君
の御方にたてまつり給ふにしのたいにはましてめつらしくおほえ給ことのす
なれはあけくれかきよみいとなみおはすつきなからぬわか人あまたありさま
ゝにめつらかなる人のうへなとをまことにやいつはりにやいひあつめたる中
にもわかありさまのやうなるはなかりけりとみたまふすみよしのひめ君のさし
あたりけむおりはさるものにていまのよのおほえもなを心ことなめるにかそへ

のかみかほとくしかりけむなとそかのけむかゆ、しさをおほしなすらへ給ふ
とのもこなたかなたにかゝるものものちりつゝ御めにはなれねはあなむつか
し女こそものうるさからす人にあさむかれむとむまれたるものなれこゝらのな
かにまことはいとすくなからむをかつしるくかゝるすゝろ事に心をうつしは
かられ給ひてあつかはしきさみたれのかみのみたるゝもしらてかき給ふよとて
わらひ給ものからまたかゝるよのふる事ならてはけになにをかまきゝることな
きつれつれをなくさめましきてもこのいつはりものなかにけにさもあらむと
あはれをみせつきくしくつゝけたるはたはかなしことゝしりなからいたつら
に心うききらうたけなるひめ君のものおもへるみるにかた心つくかしまたいと
あるましき事かなとみるくおとろくしくとりなしけるかめおとろきてしつ
かにまたきくたひそにくけれとふとおかしきふしあらはなるなどもあるへしこ
のころおさなき人の女はうなとに時くよまするをたちきけはものよくいふも
のゝよにあるへきかなそらことをよくしなれたるくちつきよりそいひいたすら
むとおほゆれとさしもあらしやとのたまへはけにいつはりなれたる人やさま
くゝにさもくみ侍らむたゝいとまことのことゝこそ思ふ給へられけれとてすゝ
りをゝしやり給へはこちなくもきこえおとしてけるかな神よゝり世にあること
をしるしをきけるなゝり日本記などはたゝかたそはそかしこれらにこそみち
くしくくはしき事はあらめとてわらひ給ふその人のうへとてありのまゝにい
ひいつる事こそなければきもあしきも世にふる人のありさまのみるにもあかす
きくにもあまることを後の世にもいひつたへさせまほしきふくを心にこめ
かたくていひをきはしめたるなりよきさまにいふとてはよき事のかきりえりい
てゝ人にしたかはむとては又あしきさまのめつらしき事をとりあつめたるみな
かたかたにつけたるこのよのほかのことならすかし人のみかとのさえつくりや
うかはるおなしやまとのくにごのことなれはむかしいまのかはるへしふかきこ
とあさき事のけちめこそあらめひたふるにそら事といひはてむもことの心たか
ひてなむありけるほとけのいとうるはしき心にてときをき給へる御法もはうへ
むといふ事ありてさとりなきものはこゝかしこたかふうたかひをゝきつへくな
んはうとう経の中におほかれといひもてゆけはひとつむねにありてほたいとほ
むなうとのへたゝりなむこの人のよきあしきはかりの事はかはりけるよくいへ
はすへてなに事もむなしからすなりぬやとものかたりをいとわさとのことにの
たまひなしつさてかゝるふる事の中にまろかやうにしほうなるしれものゝ物語
はありやいみしくけとをきものゝひめ君も御心のやうにつれなくそらおほめき

したるはよにあらしないさたくひなきものかたりにして世につたへさせんとさしよりにきこえ給へはかほゝひきいれてさらすともかくめつらかなる事はよかたりにこそはなり侍ぬへかめれとのたまへはめつらかにやおほえ給けにこそまたなき心ちすれとてよりゐたまへるさまいとあされたり

思ひあまりむかしのあとをたつぬれとおやにそむけるこそたくひなきふけ

うなるはほとけのみにいみしくこそいひたれとのたまへとかほもゝたけ給はねは御くしをかきやりつゝいみしくうらみ給へはからうして

ふるきあとをたつぬれとけになかりけりこのよにかゝるおやの心はときこ

え給も心はつかしければいいたくもみたれ給はすかくしていかなるへき御ありさまならむゝらさきのうへもひめ君の御あつらへにことつけて物かたりはすてかたくおほしたりくまのゝものかたりのゑにてあるをいとよくかきたるゑかなとてこらむすちゑさき女君のなに心もなくてひるねしたまへる所をむかしのありさまおほしいてゝ女君はみたまふかゝるわらはとちたにいかにされたりけりまろこそなをためしにしつへく心のとけさは人にゝさりけれときこえいて給へりけにたくひおほからぬ事ともはこのみあつめ給へりけりかしひめ君の御まへにてこのよなれたるものかたりなとなよみきかせ給ひそみそか心つきたるものゝむすめなどはおかしとにはあらねとかゝる事よにはありけりとみなれ給はむそゆゝしきやとのたまふもこよなしとたいの御方きゝ給はゝ心をき給ひつへくなむうへ心あさけなる人まねともはみるにもかたはらいたくこそうつほのふちはら君のむすめこそいとおもりかにはかゝしき人にてあやまちなかめれとすくよかにいひいてたる事もしわざも女しき所なかめるそひとやうなめるとのたまへはうつゝの人もささあるへかめるひとゝしくたてたるおもむきことにてよきほとにかまへぬやよしなからぬおやの心とゝめておほしたてたる人のこめかしきをいけるしにてをくれたる事おほかるはなにわさしてかしつきしそとおやのしわざゝへおもひやらるゝこそいとをしけれけにさいへとその人のけはひよとみえたるはかひありおもたゝしかしことはのかきりまはゆくほめきたるにしいてたるわさいひいてたることのなかにけにとみえきこゆる事なきいとみをとりするわさなりすへてよからぬ人にいかてひとほめさせしなとたゝこのひめ君のてむつかれ給ふましくとよろつにおほしのたまふまゝはゝのほらきたなきむかしものかたりもおほかるを此比心みえに心つきなしとおほせはいみしくえりつゝなむかきとゝのへさせゑなにもかゝせ給ひける中将の君をこなたにはけとをくもてなしきこえ給へれとひめ君の御方にはさしもさしはなち

きこえ給はすならはし給ふわかよの程はとてもかくてもおなしことなれとなか
らむよを思ひやるになをみつきおもひしみぬる事ともこそとりわきてはおほゆ
へけれとてみなみおもてのみすのうちはゆるし給へりたいはむ所女はうのなか
はゆるし給はすあまたおはせぬ御なからひにていとやむことなくかしつきこ
え給へりおほかたの心もちるなともいとのくしくまめやかにものし給ふき
みなれはうしろやすくおほしゆつれりまたいはけたる御ひゝなあそひなどのけ
はひのみゆれはかの人のもろともにあそひてすくしゝとし月のまつ思ひいてら
るれはひるなのとのゝみやつかへいとよくし給ひておりくゝにうちしほたれ給
けりさもありぬへきあたりにははかなしこともたまひふるゝはあまたあれと
たのみかくへくもしなささるかたになとかはみさらむと心とまりぬへきをも
しるてなをさり事にしなしてなをかのみとりのそてをみえなをしてしかなと思
ふ心のみそやむことなきふしにはとまりけるあなかちになとかゝつらひまとは
ゝたふるゝ方にゆるし給ひもしつへかめれとつらしとおもひしおりくゝいかて
人にもことはらせたてまつらむとおもひをきしわすれかたくてさうしみはかり
にはをろかならぬあはれをつくしみせておほかたにはいられおもへらすせうと
の君たちなどもなまねたしなどのみおもふことおほかりたいのひめ君の御あり
さまを右中将はいとふかく思ひしみていひよるたよりもいとはかなければこの
君をそかこちよりけれとひとのうへにてはもとかしきわさなりけりとつれなく
いらへてそのし給ひけるむかしのちゝおとゝたちの御なからひにゝたり内の
おとゝは御こともはらくゝいとおほかるにそのおひいてたるおほえ人からにし
たかひつゝ心にまかせたるやうなるおほえ御いきほひにてみなゝしたて給ふ女
はあまたもおはせぬを女御もかくおほしゝことのとゝこほり給ひひめ君もかく
ことたかふさまにてもものしたまへはいとくちおしとおほすかのなてしこをわす
れ給はすものゝおりにもかたりいて給ひしことなれはいかになりにつむものは
かなかりけるおやの心にひかれてらうたけなりしひとを行ゑしらすなりにたる
ことすへて女こといはむものなんいかにもめはなつましかりけるさか
しらにわかこといひてあやしきさまにてはふれやすらむとてもかくてもきこえ
いてこはとあはれにおほしわたる君たちにもゝしさやうなるなのりする人あら
はみゝとゝめよ心のすさひにまかせてさるましき事もおほかりし中にこれはい
としかをしなへてのきにはおもはさりし人のはかなきものうむしをしてかく
すくなかりけるものゝくさはひひとつをうしなひたることのくちおしき事とつ
ねにのたまひいつなかころなとはさしもあらすうちわすれ給ひけるを人のさま

くにつけておんなこかしつきたまへるたくひともにわかおもほすにしもかな
はぬかいと心うくほいなくおほすなりけり夢みたまひていとよくあはするもの
めしてあはせ給ひけるにもしとしころ御心にしられ給はぬ御こそ人のものにな
してきこしめしいつることやときこえたりければ女この人のこになる事はおさ
おさなしかしいかなる事にかあらむなとこのころそおほしのたまふへかめる